

みんなの環境

第 48 号 2021 年 5 月 29 日

編集/発行 あつぎ環境市民の会
<http://atsugikankyo.g3.xrea.com/>

2021 年度定例総会を 5 月 29 日(土)

神奈川工科大学で開催します

あつぎ環境市民の会代表 *井上 允

新型コロナウイルスがまん延し収束の兆しが見えないまま、感染がさらに変異株に置き換わりつつある中で、ワクチン接種スケジュールは大幅に遅れ、政権の危機管理能力の脆弱さを見せつけられた 1 年でした。いつになったら市民が安心して暮らせる日が来るのだろうか、国は我々の命を守ってくれるのだろうかと思いを巡らす今日この頃です。

このような状況下ではありますが、今年の総会は神奈川工科大学をお借りすることができましたので感染防止対策を十分に施しながら次の日程で開催いたします。

総会の記念講演には、会発足時から年 2 回実施している二酸化窒素 (NO₂) モニタリングで、分析に多大なご協力をいただいております同大学副学長齋藤貴教授にお願いしました。国際的に問題になっている海洋プラスチックごみによる海洋汚染に関して研究成果などを含めて最新の知見をお話しいただく予定ですので、多くの会員の参加をお待ちしております。

総会日程 日時：5 月 29 日 (土) 13 時開会、16 時終了予定

場所：神奈川工科大学 K3 号館講義棟 103 号教室 (守衛所の南側)

(駐車スペースは構内にありません。誘導係の案内に従ってください)

記念講演：「マイクロプラスチックと魚類への海洋汚染」

講師：神奈川工科大学副学長・工学部応用化学科教授 齋藤 貴氏

...

◇環境行政と意見交換会を持ちました

4 月 22 日、厚木市役所本庁舎で環境行政と当会の意見交換会を持ちました。環境政策課、環境事業課の各課長含め 6 名と、本会からは 8 名が参加しました。具体的には、第 5 次厚木市環境基本計画 (6 年間)、地球温暖化対策実行計画 (10 年間)、厚木市一般廃棄物処理基本計画 (6 年間) について説明を受けたほか、ごみの減量化・資源化、あつぎ環境フェアの在り方、地球温暖化への取組みなど喫緊の課題について意見交換を行い、市の環境政策への理解を深めることができました。

今号の「みんなの環境」では本会で活躍する 2 人の女性会員からの寄稿を掲載しました。発足以来のメンバー狩野光子氏は様々な大気汚染モニタリング計測値に皆が関心を寄せ、安全な空気・水・大地を次世代に残そうと強い想いを語り、あつぎ市民発電所理事長でもある遠藤睦子氏は「2050 年ゼロカーボンシティ宣言」への期待と題して意見交換会を詳報していただきました。是非ご一読いただき今後の活動の一助にいただければ幸いです。

* (いのうえ まこと) 厚木市上荻野在住

振り返って考える

二酸化窒素 NO₂ の測定がなぜ大事なのか

* 狩野光子

30年ほど前、環境保全活動をはじめた頃、「人間は自分の体以外にも、もう一つの体を持っている、それは自然です」という言葉を聞いた時、ドキ！としたことがあります。自然とは何か？あまり深く考えた事がなかったのですが、それは、空気であり、水であり、大地であって、当たり前すぎて深く考えることがなかったことを思い出します。

◇NO₂ モニタリングのきっかけ



2020年12月 分析担当の神奈川工科大学学生さんと

あつぎ環境市民の会が、大気汚染のNO₂の測定をするきっかけになりましたのが、私が神奈川県環境学習リーダー会に属している頃、大気部会から厚木市内6カ所のNO₂測定を託されたのがきっかけです。

あつぎ環境市民の会でも、メッシュをかけて市内の大気汚染状況をモニタリングしたらどうか？という青砥さんの提案があり、その分析を神奈川工科大学応用化学の齋藤貴教授（現副学長）に相談させて頂き、快く引き受けて頂きました。また神奈川工科大学の学生さんにも市内の小学校の前のモニタリングをお願いしたらどうか？と井上

さんの提案もあり、現在に至っております。

◇簡易なNO₂測定が奨励された

日本がNO₂の環境基準を決定したのは、高度経済成長と共に世界最悪の公害国で、大気汚染が悪化した1973年、「1時間値の1日平均値0.02ppm以下」と設定されました。しかし、1978年には「1時間値の平均値0.04~0.06ppm」以下と変更になりました。橋本道夫著「私史環境行政」を読むと当時の様々な葛藤があるのが読み取れますが、当時の毎日新聞【余録】には以下のような、記事が残されています。

▲環境庁の任務とは何か。同庁設置法の第3条には、次のように明記されている。「公害の防止、自然環境の保護及び整備そのほか環境保全を図り、国民の健康で文化的な生活の確保に寄与するため、環境保全に関する行政を総合的に推進すること」この条文を照らす限り、環境庁とはまことに有難い役所だ。健康で文化的な生活を確保してくれるのだから、国民の味方、月光仮面みたいなものである。だが、発足以来日数を重ねるうち、次第にメッキがはげてきた。一体だれの味方なのか、と疑いたくなるような施策が、目立ち始めた▲二酸化窒素（「NO₂」）の環境基準の大幅緩和はその端的な例証だろう、NO₂は人体に対する毒性が強いし光化学スモッグの原因にもなる。汚染の張本人と言っても過言ではない。狭い国土に人間がひしめくわが国で1日の平均値が0.02ppm以下という厳しい基準が設けられたのは、必ずしも行き過ぎではなからう▲以下続きます。

一方、1968年頃、WHOも地球規模での大気汚染を憂慮しておりました。そして受動態測定が

一番簡易な NO2 の測定の奨励、勧告を 1994 年に出しています。

◇いま関心の高い大気汚染は

現在、大気汚染というと、一番関心が高いのは放射能ではないかと思えます。振り返ってみると、1986 年のチェルノブイリの原発事故の時には、世界中に放射能が飛散しました。日本にも放射能が飛んで来ていて、藤沢市は市民の熱い希望により、食品の放射能（セシウム 134、セシウム 137）を測定できる機器を市役所に設置しました。現在でも続いており、福島第一原発事故のモニタリング前後のデータは、離れていても原発事故は無関係ではない事をデータで読み取る事が出来ます。藤沢の市民ならどなたでも申し込みが出来るそうです。

横須賀には福島第一原発一号炉と同規模の原子炉を積む原子力空母ジョージ・ワシントンが配備されており、もし事故が起きれば神奈川県はすっぽり 50 ㎞ 圏内に入ってしまう。

また、地震国の我が国に、老朽化しつつある原発が 54 基もあります。日本には「緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム・SPEEDI」があり、若い人たちにはデータを読み取る学習の場を与えて欲しいと思えます。

また、その藤沢の市民団体が市内 100 ヵ所以上の NO2 モニタリングを重ねていて、道路沿いの汚染と喘息の罹患を調べ、ただモニタリングに終わらず、子供達を守るため、そのモニタリングを日常生活の暮らし方に警告を出している事に敬服してしまいます。

◇モニタリング計測値に関心を

大事な事は、NO2 だけではなく、色々なモニタリングの数値に関心を持つことによって、自分や子供を守る意識を持つことだと思います。福島の第一原発事故の時は、年間 1 ミリシーベルトから、あっという間に 20 ミリシーベルトに緩和されました。海外の会社関係者は関東圏から脱出、福島住民の避難した場所がホットスポットだったりした時は、びっくりさせられました。無知でいられないと思いました。

世界の基準からみると妥当だという見方もあるようですが、人間が作った化学物質は NO2 や放射能だけではありません。手元にある、2010 年度の化学物質 PRTR データによれば、我が国は年間に約 890 トンが環境中へ排出されたと見積もられています。

もちろん NO2 モニタリングは、入門的なもので、そのほかの化学物資も何万種と毎年積み重ねられ、世界中で大問題になっている「除草剤ラウンドアップ」が日本では普通に売られています。ネオニコチノイドのように洗っても取れない神経性毒性農薬が EU と比べると残留基準が最高 600 倍で、疑問をもちます。まず現実を知り買わない事だと思います。最近、書類を整理していたら「このままでは日本人は二人に 1 人が障害者のなる」というメモが見つかりました。何処で聞いたことなのか？メモっていませんでしたが、複合汚染を想像すると恐ろしくなります。日本の環境政策は【経済優先に屈服】し続け、水の豊富な日本は、水道法を改正して海外の企業が参入できるようになりました。さらに放射能基準値緩和し、世界中の核の廃棄物の処理場にどうぞ！と言いかねない不安を覚えます。

100 年前ぐらいまでは、あって当たり前の、きれいな空気、水、大地。人間だけが自然界にない物を知恵を絞って便利な生活をするため？お金儲けの為？自然界に排出して、自分の体以外の体、自然を破壊していく現実に、もっと私たちが気づき、また、せめて科学の力を借りてモニタリングをし、確認しながら規制を厳しくして、少しでも子供たちへ綺麗な空気、水、大地を残したいものです。

そして、本当に持続可能な社会を望むなら「危機管理は最悪の場合を想定」で決定する政治家を選べるような市民になりたいですね！

* (かりの みつこ) あつぎ環境市民の会、宇宙キッチン代表 厚木市戸室在住

厚木市環境行政との意見交換会

『2050年ゼロカーボンシティ宣言』への期待

市民に広く伝え、具体的な施策の推進を！

*遠藤睦子

市長が本年2月22日市議会で、「2050年ゼロカーボンシティ宣言」をしていますが、市の広報やマスコミでも全く報じられていないことについて、もっと強く広く宣言を周知して、行政はもとより市民や企業などすべての立場で同じ目標に取り組まなければ達成できないのではないかと意見を述べました。これに対し市の回答は、電気自動車（EV）ごみ収集車の導入を予定しており、その車体へのラッピング表示でゼロカーボンシティを広報したいとのことでしたが、緊迫感や本気度が感じられませんでした。

また2050年カーボンゼロへの第1段階として2030年の二酸化炭素排出量削減目標は、計画では国の基準と同等の2013年比27%でしたが、まさに意見交換の同日夜には国が2013年比46%削減を表明しました。意見交換会では目標数値が上がった場合、予算措置も含めた見直しを想定しているのか尋ね、ぜひ拡充して欲しい旨を伝えました。これに対しては、市は国に倣って計画や予算を変更するということが明言されました。

昨年来、市が主催する各計画への意見交換会やパブコメでも、気候危機回避への取組について意見を出し続けてきましたので、その過程で「低炭素」から「脱炭素」へ、また「ゼロカーボンシティ宣言」も出された、という意味では期待したいところです。しかし2030年に2013年比で半分近くまで減らす、というのは並大抵のことでは到達できません。市には猶予なく大きな声で道筋を示し、市民や企業などが何をすればいいのか、みんなが納得して推進できる仕組みを見えるようにしてほしいものです。むしろ市民が主体的に行動していく中で、市政を突き動かすしかないのかもしれないと思います。そのためにあつぎ環境市民の会の存在意義も大きくなるものと思います。

*（えんどう むつこ）あつぎ環境市民の会、あつぎ市民発電所理事長 厚木市旭町在住

◇あつぎ市民発電所 HPが引っ越ししました。<https://atsugi-shiminhatsudensho.net/>

◇あつぎ環境市民の会 2021年度会員募集中

あつぎ環境市民の会では会の主旨に賛同する仲間を募集しています。

入会ご希望の方は下記の事務局宛にお問い合わせください。

事務局 〒243-0122 厚木市森の里3-4-3 鷺谷（さぎたに）方 あつぎ環境市民の会

電子メール：pxa05613@nifty.com ケイタイ：090-7243-9254

みんなの環境 第48号 2021年5月29日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 井上允 / 制作 長岡恂

<http://atsugikankyo.g3.xrea.com/>

事務局 〒243-0122 厚木市森の里3-4-3 鷺谷雅敏方

e-mail：pxa05613@nifty.com ケイタイ：090-7243-9254

郵便振替口座 00200-7-132779（年会費 1000円）

(C)あつぎ環境市民の会 2021